



ベネディクト・アンダーソン 『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』

渡辺彩加

本書は初版の9章と1991年の増補版で追加された2章の計11章から成り立っている。筆者は「国民は（イメージとして心の中に）想像されたものである」（p. 24）と述べた。この国民は宗教的想像共同体が衰退していく中で形成され、その要因として筆者は出版資本主義を挙げている。これまでお互いに異なる言語を話すために理解できていなかった人たちが、印刷や紙、出版語によって相互理解が可能になり、読者同胞が形成されてきた。植民地国家の想像の仕方に関して筆者は、人種的また数量的に行われた人口調査、ロゴ化した地図、また博物館がそれぞれナショナリズムに影響を与えてきたと説明している。増補された章では、なぜ旧空間において新空間より早くナショナリズムが勃興したのかを解説している。国民として伝記となって残っていく際には「われわれのもの」として記憶または忘却されなければならないことを述べた。このように本書はナショナリズムを見直すきっかけとなる、まさに金字塔的な研究書である。



出典:

- Benedict Anderson, *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism* (Verso, 1983, 2nd edition, 1991, Revised edition, 2006).
- 『想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』（邦訳：白石隆・白石さや、リブポート、1987年）
- 『増補 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』（邦訳：白石隆・白石さや、NTT出版、1997年）
- 『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』（邦訳：白石隆・白石さや、書籍工房早山、2007年）